

## I 研究主題

### 言語活動の充実を図る学習指導

～ 学びがいのある学習課題から【共有】と【吟味】の活動を取り入れた学習指導を通して(新しい自分の発見)～

## II 主題設定の理由

### ◇ 生徒の実態から

- 少人数学級のため、落ち着いた態度で授業に参加している。
- 自分の考えを積極的に発表できる生徒はいるが、お互いに意見を交わし合うことや、様々な考え方にふれて自分の思考を深めていく場面が少ない。
- 考えや意見を伝える場を与えれば自己表現できる生徒が多いので、授業などで日常的に表現する機会を与える必要がある。
- 他と自分を比較する機会が少なく、自己の変化や成長を感じられる機会が少ない。

### ◇ 昨年度の実践の成果と課題、全国学力・学習状況調査の結果から

- 【再生・要約・換言】活動を取り入れるなど、教師側の手立ての工夫により、少人数でも充実した話し合い活動ができることが分かった。
- 教師の適切なコーディネートにより自己表現する場面は増えたが、生徒同士での話し合いでは自分の気持ちや考えを表すことができない生徒が多い。
- 全体的に学力は向上している。教科によって学力差が大きく、苦手意識が強い教科は、基礎的・基本的な内容の定着が不十分な生徒がいる。
- 知識や技能を活用する力が極めて低いわけではなく、基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な生徒が多い。
- 家庭学習の取組は個人差が大きい。地域に学習塾等がないので、学習内容の定着のために家庭での学習の充実が課題となっている。

## III 研究仮説

### 1 研究仮説

学習指導において、以下のような手立てを講じれば、言語活動の充実が図られ、

- (1) 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、 (2) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、思考力・  
(3) 判断力・表現力等の育成し、確かな学力が育まれるであろう。

【具体的手立て】

(4)  
手立て1 学びがいのある魅力的な学習課題を設定する。

手立て2 集団思考や話し合いの場において、多様な思考や表現を引き出すために

(5)  
【共有】と【吟味】の活動を取り入れる。

## 2 仮説にかかわる概念規定

### (1) 「主体的に取り組む態度」とは

主体的とは、「自分の意志・判断によって行動するさま」とされている。これを生徒の学ぶ姿に当てはめると自ら探究的に学び続けようとする姿である。それは、進んで課題を見つけることに始まり、その問題を解決するために必要な情報を収集する方法を考え、集めた情報を判断し、取捨選択できる生徒である。さらにどのように考えをまとめ、どのように表現すればよいかを考え、他者にわかりやすく伝えることのできる生徒である。

### (2) 「基礎的・基本的な知識・技能」とは

学習指導要領の指導事項（内容）に示されているものを対象にした基礎的・基本的な知識・技能である。生活や学習の基盤となるものであり、日常生活においても各教科や総合的な学習の時間における学習においても、様々な活動の基になるものである

### (3) 「思考力・判断力・表現力」とは

基礎的・基本的な内容が定着され、習得された知識・技能を活用して課題を解決するために必要な能力ととらえる。これらの能力は観察・実験レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることで育成される。

### (4) 「魅力的な学習課題」とは

「魅力的な学習課題」とは生徒の「解決したい」「調べたい」という思いを高め、生徒が解決方法を「聞きたくなる」そして「伝えたい」となる学習課題である。そのためには多様な意見を引き出すことのできる学習課題でなければならない。生徒は自分とは違う意見が出るから聞きたくなる。するとそれに誘発されて、自分の考えも言いたくなっていく。話し合う必要感を生み、多様な意見や考えが導き出せる学習課題を設定することで、生徒の主体的な言語活動に取り組む授業になる。

### (5) 「【共有】と【吟味】の活動」とは

本校では、少人数であるからこそ他者の思考や表現を受け止めさせ、自己に反映させ、より多様な思考や表現ができるような指導の工夫が求められる。新たな考えにふれ自他の考えと比較する活動で共通点や相違点への気付きを生み出すことができる。そこから、相手の考えの良さを認めたり、自分の考えの根拠を明確にして表現したりしていく。

【共有】と【吟味】の活動は仲間とともに新たな自分の考えを作り出すためのプロセスであり、この経験の積み重ねが「思考力・判断力・表現力」を高めていくために、非常に有効であると考えられる。

## IV 研究の実際

### 1 全国学力調査の結果を踏まえた重点的な取り組みについて

#### ◆ 国語

「書くこと」に関しては国語A・Bともに昨年度よりも正答率が向上している。授業や授業外の機会を活用し、自分の考えを文章でまとめる、といった活動を継続していきたい。また、自分の考えを説明する際には、具体的な根拠を明確にするということを徹底して、指導していきたい。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、課題が多く見られた。語句の知識については、興味関心を高めるとともに、繰り返し学習するという積み重ねが必要になってくる。これについても、授業外、特に家庭での学習を推進していかなければならないと感じた。また、その基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決する場を設定することにより、生徒の意欲向上も図りたい。

#### ◆ 数学

知識・技能の確実な定着を図るために、授業の導入で既習事項の復習を行うとともに、練習させる時間を確保し、繰り返し学習する習慣を身につけさせる。また単元テストや定着確認シートを活用し、生徒の実態を把握し、定着度の低い内容については、学び直しの場を設定したり、個別指導を行ったりと、基礎基本の確実な定着に努める。今回の結果から筋道を立てて説明する問題の正答率が低いので、数学的活動を重視した指導を充実させる。そのためにも授業のねらいを適切に設定し、授業の中で理由を考えたり、自分のことばで説明したりする場を設定する。また活用力を育成するため、単元毎に計画的に問題解決学習を行う。本時の授業の学習でわかったことを自分のことばでまとめさせ、学習を振り返る時間を毎時間確保する。

### 2 校内授業研究会の実施

#### (1) 校内授業研究会

- ① 社会 平成26年10月30日(木)
- ② 英語 平成26年11月11日(火)
- ③ 美術 平成26年11月14日(金)
- ④ 数学 平成26年11月17日(月)
- ⑤ 国語 平成26年11月18日(火)

#### (2) 校内授業研究会(代表授業)・研究協議会の実施

理科 平成26年11月18日(火)



#### 【研究協議会より】

##### ① 【手立て1】について

- ・導入で、水槽を通してみるとずれるドラえもんの絵を提示し、「ドラえもんが消えるのはなぜか」という問いは、生徒の興味関心を高めることができた。しかし、あまりに導入の課題が魅力的だったため、本時の課題ではなく、ドラえもんが消える理由を考えている生徒が見られた。本時のねらいを踏まえて、考える視点を明確に与えるべきであった。
- ・本時の課題の「どのような決まりがあるか」より、角度に絞った思考になるよう明確にすべきであった。

##### ② 【手立て2】について

- ・話し合いを活発にするために、学力を考慮したペアを作ったが、学力差が大きく話し合いが活発に行われなかった。
- ・生徒の予想外の考えや行動に備えた準備が必要である。また生徒のつぶやきを拾って、それを生徒に返してやる。対立した意見など出したり、発問の工夫が必要である。
- ・専門的な用語「進み方」、「道筋」、「中心」などを使って、説明させる。



### ③ 指導助言

- ・「ドラえもん絵」の利用は、工夫しがいがある素晴らしい教材であった。導入で不思議だと思ったことが、授業の最後に解決できたら良かった。
- ・ねらいは、疑問系「～だろうか?」とする。
- ・実験のとき、手元が暗かったので、懐中電灯やスタンドを準備すると良かった。
- ・課題追究では、こどもに何をつかませたいのか、教師側はぶれないようにしなければならない。
- ・子どもの気づきを大切にしてほしい。少人数のときは、先生が学級の一員となることも必要である。
- ・思考力・表現力を高めるための言語活動を大切に。教えすぎ、与えすぎには注意する。



## 3 授業を支える活動や基礎基本の定着を図る取り組み

### (1) 家庭学習を充実させる指導・PU（パワーアップタイム）

本校は山間部にあり、学習塾や家庭教師などを利用することは難しい環境にある。そのため昨年度から、生徒の実態に合わせて問題集（5教科の教科書ワーク）を活用し、家庭学習の充実を図ってきた。1日1教科の問題集を持ち帰り、授業で学習した内容まで問題集を解いてくる。そして次の日の朝自習で解答を配付し、自己採点してできなかった問題の復習を行うように指導してきた。また、生徒がわからない問題をすぐ質問できるよう全職員で支援を行った。そして、学期毎に問題集で学習した内容から5教科のPUテストを実施し、生徒の家庭学習への意欲を高めるとともに、各教科の基礎基本が定着しているか確認を行った。しかし、問題集の取り組み方に個人差があり、課題が残った。

1, 2年生は問題集の他に自主学習ノートを1日2ページ、3年生は進路に向けて教材を使った学習にも取り組ませていたため、問題集の学習がおろそかになる生徒が見られ、学習量に差が出てしまった。また検定試験前や定期テスト前はテスト勉強のため、問題集を使った学習を行わないので、授業で学習した内容まで問題集を進めることができない生徒が見られた。朝自習の時間に、わからないときにすぐ質問できるよう全職員で指導にあたったが、わからない問題があっても質問する生徒が少なく、わからないまま解答を写して終わる生徒が見られ、効果的に問題集を活用できない生徒が見られた。

このような実態から、今後は個に応じた指導と問題集の選定の工夫など家庭学習内容の精選が必要であると感じた。

### (2) 各種検定試験の実施

全校生が「玉野中検定部」と称し、各種検定試験（漢字検定、数学検定、英語検定、理科検定、歴史検定）を受験した。この取組は、今年度で3年目になるので、2, 3年生は昨年度取得した資格からさらにレベルアップした級を選択し、教科担当による検定試験に向けての学習指導や、DSソフトを活用しながら学習を進めることができた。検定試験の2週間前は、放課後30分間、1週間前はPUの時間を検定試験に向けての学習時間として、指導を行った。

それぞれの検定に向け、合格という明確な目標を持って学習に取り組む姿が見られ、学習意欲の喚起につながる有効な取り組みであった。





### (3) 玉野地区における小・中連携の取組

本校は、小学校がすぐ近くにあるため、合同で取り組む行事が多く、教職員も日常的に共通理解を図りながら教育活動に取り組むことができた。

現職教育では、それぞれの研究テーマで研究を進め、研究授業では互いに参観し研究を深めた。事前に指導案を配付し、授業を参観することで、小中での学習内容の系統性や指導方法を共有することができた。小学校でどのような学びをしてきたのかを知ることができ、中学校での学習指導に役立てることができた。



### (4) 授業実践講座・外部講師による模範授業

#### ① 授業学研究所による授業実践講座

授業学研究所の指導官に授業を参観・撮影していただき、撮影した映像をもとに良かった点の確認や改善点のアドバイスをいただいた。今年度は英語と社会の授業を参観していただき、「授業のスキルアップのために」大切なことをご指導いただいた。

学びには、①「学力がつく」ことと、②「学びが生きる力につながる」ことの2つがある。

①は知識としての学力であり、その習得のためには数回の緊張が必要である。授業は「緊張」と「緩和」のバランスが大切であり、「できる・わかる・おもしろい授業」になるための黄金比は「緩和」6：「緊張」4であると良いことをご指導いただいた。

また本校のような少人数学級での有効な授業のテクニックもアドバイスいただき、授業の改善すべき点を具体的にご指導いただいた。

#### ② 相馬市学力支援事業 玉野中学校 模範授業研修会

「生徒達が意欲的に数理を探る授業過程を展開したい。」

そのための言語活動の充実について考える」福島大学教授 森本 明 先生

学年一斉の数学の模範授業を、福島大学の森本先生に実践していただいた。

「わけを表現してみよう」という題材で、原液と水という2つの数量について、「割合」に着目して考え、表現する授業を模範授業として実践していただいた。1年生から3年生までの全校生徒が、意欲的に取り組める課題を設定していただき、生徒の発見や考えをうまく引き出し、発表しやすい雰囲気の中で、意欲的に課題解決に取り組む姿が見られた。

数学科以外の教員も含めた全職員で授業を参観し、研究協議会でも活発に意見交換を行うことができた。生徒の興味関心を高める課題設定の工夫、授業をつくるポイント、生徒の話し合いを活発にさせるために大切なことなど詳しくお話いただき、充実した研究協議となった。



## V 成果と課題

### (1) 日々の授業を通して

本校は、全校生徒11名（1学年6名、2学年2名、3学年3名）の小規模校である。昨年度から「言語活動の充実」を現職テーマに掲げ実践してきて、【再生・要約・換言】の活動を取り入れるなど、教師側の手立ての工夫により、少人数でも充実した話し合い活動ができることがわかった。しかし、教師の適切なコーディネートにより自己表現する場面は増えたが、生徒同士での話し合いでは自分の気持ちや考えを表すことができない生徒が多くみられることから、互いに意見を交わし合うことや、様々な考え方に触れさせることで、生徒の思考は深まっていくのではと考えて今年度の研究は始まった。

#### ① 手立て1の【学びがいのある魅力的な学習課題】について

○多様な意見や考えを導き出せる課題を設定することで、【共有】と【吟味】の活動を行う必要性が生まれ、言語活動の充実につながった。

●学びがいのある魅力的な学習課題には、解決方法を「聞きたくなる」「伝えたい」といった学習意欲を高める効果がある。それだけでなく、言語活動の充実を大切である。

#### ② 手立て2の【共有】と【吟味】の活動を取り入れることについて

○他の生徒の思考や表現に触れさせることで、相手の考えのよさに気づかせることや自分の考えをわかりやすく表現する力の育成につながった。

●【共有】と【吟味】の活動は、授業のねらいを達成するための効果的な手立てでなければならない。効果的な話し合い活動にするためには、教師が本時のねらいを明確にした上で、学習形態や発問を工夫する必要がある。また、コーディネート力の向上も大切である。

### (2) 授業を支える補充活動や基礎基本を定着させる取組について

#### ① 家庭学習を充実させる指導

○昨年度から実施してきた5教科の教科書ワークを活用した学習では、生徒が家庭で学習する内容が明確になり、家庭学習の習慣が身についた。また問題集で既習事項の復習を行う事で、基礎基本の定着が図られた。

○全学年1つの教室で、朝のPU（パワーアップタイム）の時間を、落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができた。全職員で指導することで、個に応じたきめ細かな指導をすることができた。

●問題集以外にも1, 2年生は自主学習ノートを1日2ページ、3年生は進路に向けて教材を使った学習にも取り組ませていたため、問題集の学習がおろそかになる生徒が見られ、学習量に差が出てしまった。

●わからないときにすぐ質問できるよう全職員で指導にあたったが、わからない問題があっても質問する生徒が少なく、わからないまま解答を写して終わる生徒が見られ、効果的に問題集を活用できない生徒が見られた。

●問題集など決められた学習には取り組むが、自ら目標を持って家庭学習に取り組む生徒が少ない。苦手を克服したり、間違った問題を復習したりするなど効果的な学習ができるよう個に応じた指導が必要である。

#### ② 各種検定試験の取り組み

○全校生で検定試験に臨むことで、合格という明確な目標に向けて意欲的に学習に取り組むことができた。小規模校で他の生徒と学力が比較される場面が少ない生徒にとって、客観的に自分の学力を知ることができる検定試験の取組は貴重な機会であった。

●検定試験を自分で選択して受験する他の学校の生徒に比べ、自分で問題集を購入して自ら学習に取り組む生徒はいない。

●検定試験や定期試験、PUテストなど試験が多く、1つ1つ落ち着いて学習に取り組むことができない生徒が見られた。検定試験の勉強とPUの問題集の両立ができない生徒も見られ、検定試験の実施時期や問題集の選定などの改善が必要である。